令和6年度　SPARC全国シンポジウム　「連携と共有」で創る，大学教育の未来 』

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia（シンシア）

「しあわせ信州」を創造する
地域活性化高度人材育成プログラム

オンデマンド授業と大規模PBLにより、地域課題解決人材の育成を目指す　～ShinXiaプログラム～

令和7年3月6日（木）KDDI維新ホール 大ホール

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY
公立大学法人 長野大学
佐久大学

地域活性化人材育成事業 ～SPARC～ とは

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia

地域の大学における
課題

Society5.0を支える人材として、
自然科学の素養も求められる中において
自然科学を専攻する学生は3割

地域社会が学生に期待・評価する能力の養成に
大学の実施する教育プログラムが
十分に対応・機能していない

本格的な産学連携が進まず、
外部リソースの
獲得が不足

地域社会と大学間の連携を通じて
既存の教育プログラムを再構築し、地域を牽引する人材を育成

本事業で
目指す姿

大学間連携により、
文系学部でも自然科学の素養を
身につけられる教育体制を整備し、
教育内容の充実を図る
（学部等の再編、拡充など
科学技術分野の人材育成を促進）

地域社会との
本格的連携による
人材育成・イノベーションの創出

大学の学びを
地域社会の
フィールドへ展開

SPARCとは

“Supereminent Program for Activating Regional Collaboration”
の頭文字を組み合わせた略称で、文部科学省事業です。

地域社会と大学間の連携を進めるプラットフォーム

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia

信州共創プラットフォーム運営会議

目的　産学官の代表者により、プラットフォームの運営方針を決定

メンバー
長野県知事
信州大学長
長野県経営者協会長
長野大学長
松本大学長

高等教育コンソーシアム信州

設置経緯目的等　2008年発足。地域の教育・学術研究の充実・発展を図るとともに、産学官による人づくり・まちづくりへ貢献する

メンバー
- 信州大学、長野大学、佐久大学
- 他県内8大学
- 長野県

産業人材育成会議

メンバー
- 信州大学
- 長野大学
- 佐久大学
- 長野県経営者協会
- 八十二銀行
- 長野県
- 長野工業高等専門学校

産学官連携推進会議

信州共用機器ネットワーク（SHINE）

メンバー
- 信州大学
- 長野県経営者協会
- 八十二銀行
- 長野県
- 長野県産業振興機構

連携　連携

長野県産業人材育成支援ネットワーク

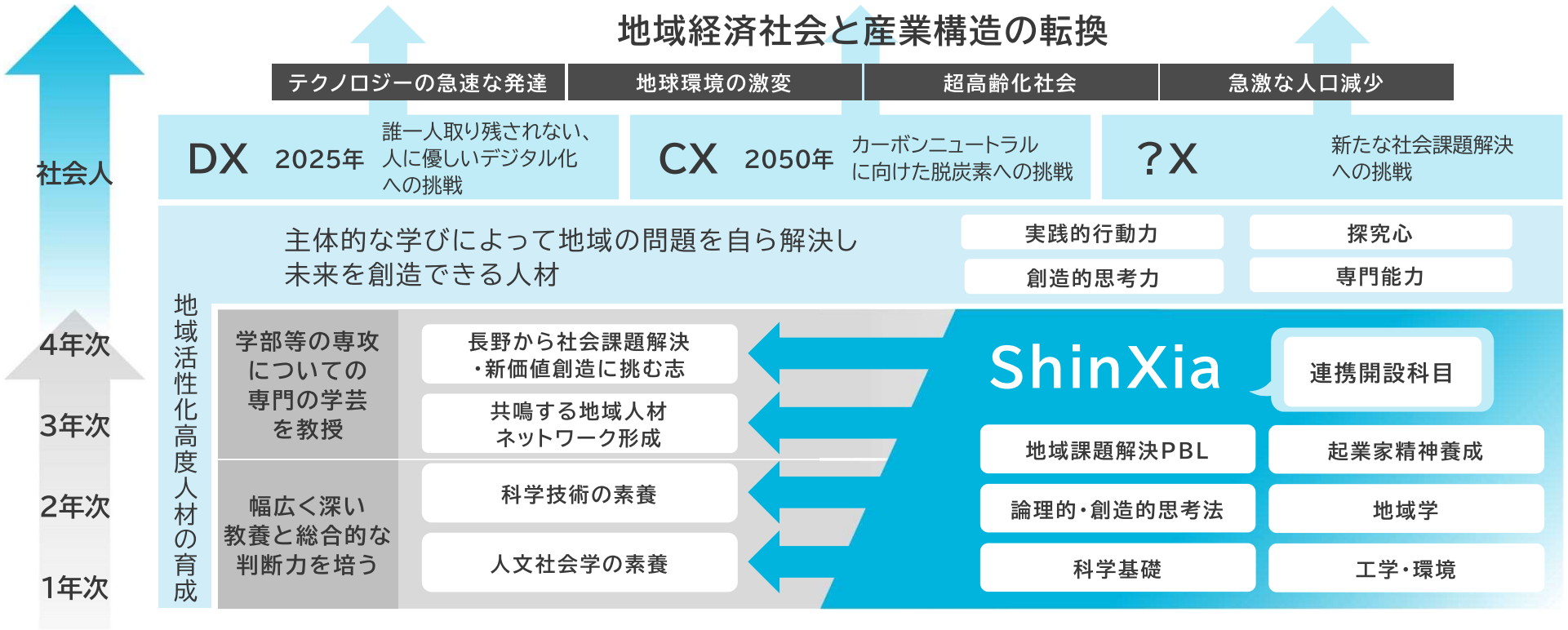
設置経緯目的等　2007年から産学官金連携で地域産業の持続化に必要な人材を育成。人材育成・確保や県民のキャリア形成ニーズへの対応、課題解決への方策に関し、情報・意見交換、施策の検討等を実施

長野県産学官連携協議会

設置経緯目的等　2009年からイノベーション創出による地域の経済発展を目指し、産学官金が連携した取り組みを推進

地域を牽引する人材の育成～長野県におけるSPARC事業～

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia



課題解決のために文理横断・文理融合的な思考・素養を身に付けつつ、持続可能な
世界・地域社会実現に向けた新たな「しくみ」を提案できる地域活性化高度人材の育成

事業参加大学・学部・学科とその定員

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia

公立大学法人 長野大学

社会福祉学部	社会福祉学科	150人

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY

経法学部	応用経済学科	100人
工学部	物質化学科	95人
	電子情報システム工学科	170人
繊維学部	先進繊維・感性工学科	65人
	化学・材料学科	105人

535人
※ 希望する学生のみが履修

学校法人 佐久学園 佐久大学

人間福祉学部	人間福祉学科	70人

755人

令和6年度事業の概要と進捗

課題解決のために文理横断・文理融合的な思考・素養を身に付けつつ、持続可能な
世界・地域社会実現に向けた新たな「しくみ」を提案できる地域活性化高度人材の育成

○ 達成できている　△ もう少し努力が必要

○ 1. 教育プログラムで育成する能力、修得の認証、DPとの結びつきを示す質保証システムの構築・ポートフォリオ

△ 2. 3大学間で学生が交流できる機会の仕組みの検討・環境の整備

○ 3. 学生向けのサービス

△ 4. 学部等連携課程「学環」の検討

△ 5. 高大接続と社会人等を対象とした講座の開講の検討

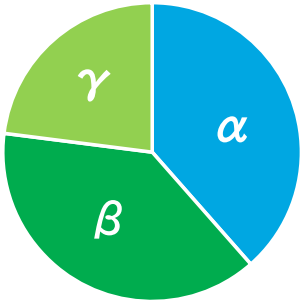
○ 6. 事業の情報発信・点検評価

長野県におけるSPARC事業の特色

1. 信州文理横断プログラム
   →DX・GXにおいて、科学技術・地域振興の成長分野を牽引する人材
2. オンデマンドが中心の授業
   →3大学所在地の地理的な距離の壁を超える
3. ShinXia-LMSへの情報の集約
   →授業動画・テキスト・補助教材・テスト・
   教員フィードバック・ポートフォリオが一元管理
4. デジタル×ものづくり
   →3Dプリンタ・レーザーカッター　試作や創造

5. 学修成果の可視化
   →地域活性化人材、行動特性、学びの振り返りを可視化するポートフォリオシステム

行動特性の内訳（必修10単位中）



信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia

地域活性化人材とは

定　義

文系・理系の枠を超えた知識・教養、専攻分野における知識

課題設定・解決力、論理的思考力、創造力

主体性、チームワーク、リーダーシップ、協調性、柔軟性

行動特性

α

信州の活性化に係る
知識・技能

β

信州の活性化に係る課題を発見・解決するための
思考力・判断力・表現力等

γ

信州の活性化に係る課題を
主体的・対話的に発見・解決しようとする態度

必修6単位を含む10単位修得で地域活性化人材に認定

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia

各大学の教養教育

各大学の専門教育

卒業認定

1年次

履修相談 / ガイダンス

必修	データサイエンスリテラシー　1単位	必修	信州学　1単位
選択必修	[科学]から2単位	選択必修	[工学・環境]から2単位

興味に応じて履修可能

選択	統計リテラシー　2単位	選択	立志学　1単位
選択	ミクロ経済学入門　2単位	選択	社会福祉の考え方　2単位

2年次

必修	地域課題解析講座　1単位	必修	経営組織論　1単位

3年次～4年次

必修	地域課題PBL　2単位	選択	インターンシップ

修了認定デジタル証明（オープンバッジ）

連携開設科目と行動特性α(39)，β(36)，γ(7)の対応

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia

科目区分	授業名	単位数	質保証			SPARC認証	
			α	β	γ	必修・選択	認証単位数
STEAM教育	統計リテラシー	2				選択	
STEAM教育	データサイエンスリテラシー	1				必修	1
STEAM教育	物理学の世界	2				8単位から選択必修2単位	2
STEAM教育	化学の世界	2					
STEAM教育	生物学の世界	2					
STEAM教育	地学の世界	2					
STEAM教育	工学入門	2				4単位から選択必修2単位	2
STEAM教育	環境学入門	2					
地域学	信州学	1				必修	1
地域学	信州学（佐久学）	1				必修	1
地域学	立志学	1				選択	
地域学	地域課題解析講座	1				必修	1
地域学	地域課題PBL	2				必修	2

科目区分	授業名	単位数	質保証			SPARC認証	
			α	β	γ	必修・選択	認証単位数
起業家精神養成	ミクロ経済学入門	2				選択	
起業家精神養成	マクロ経済学入門	2				選択	
起業家精神養成	経営組織論	1				必修	1
起業家精神養成	情報活用型ビジネスソリューション	2				選択	
起業家精神養成	アントレプレナーシップ入門	1				選択	
起業家精神養成	ビジネスとマネジメント	2				選択	
起業家精神養成	環境法入門	2				選択	
STEAM教育	社会福祉の考え方	2				選択	
地域学	地域と福祉	2				選択	
STEAM教育	こころとからだの健康	1				選択	
STEAM教育	STEAM教育概論	1				選択	
STEAM教育	心理学	2				選択	
地域学	インターンシップ	1				選択	
計		42	39	35	7		10

現状の課題と今後のチャレンジ

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。
ShinXia

1. PBL→Problem Based Learning

→ものづくりを意識した持続可能なPBLを確立すること

2.3大学間で学生が交流できる機会

→地理的な距離の壁を超えて交流できる仕組みの検討・環境を整備すること

3. 文理横断型の教育を基盤とした学部等への再編

→「サステナビリティ社会科学環」（仮称）を令和9年度 信州大学に設置
→ShinXiaプログラムと学環の専門科目の融合

4. 高大接続と社会人等を対象とした講座開講

→いずれも、ShinXiaの連携開設科目に魅力を感じてもらうこと
→COC+Rで培った実績を活かすこと